



芭蕉が辿った山形路

知っておきたい山形路の俳句

- ① 蚤虱のみしらみ 馬の尿する 枕もとぼりと（最上町）
- ③ 涼しさを 我宿にして ねまるなり（尾花沢）
- ④ まゆはきをあひかり 俤にして紅粉の花（天童）
- ⑤ 閑さや 岩にしみ入る 蟬の声（山寺）
- ⑧ 五月雨を あつめてはやし 最上川（大石田）
- ⑩ ありがたや 雪をかほらす 南谷みなみだに（羽黒手向）
- ⑩ 涼しさや ほの三か月の 羽黒山（羽黒山）
- ⑪ 雲の峯 幾つ崩れて 月の山（月山）
- ⑫ 語られぬ 湯殿にぬらす 袂たもとかな（湯殿山）
- ⑭ あつみ山や 吹浦かけて 夕すずみ（酒田）
- ⑭ 暑き日を 海にいれたり 最上川（酒田）



山寺 納経堂と開山堂

特集 芭蕉が語る 「山形自然絵巻」



堺田・封人の家



山刀伐峠神社



芭蕉・清風歴史資料館

（1）やっと見つかった宿「堺田・封人の家」

芭蕉が「奥の細道」の旅中に宿泊したところで、唯一現存する建造物と言われているのがここ「封人の家」です。「封人の家」とは国境を守る役人の家のことで、仙台領と境を接する新庄領堺田村の庄屋の家、つまりこの旧有路家住宅でした。

「**大山をのぼって、日既に暮れれば、封人の家を見かけて、舎を求む。三日風雨あれて、よしなき山中に逗留す。**」

日暮れになっても泊まる宿が見つからず、やっと探し当てて泊めてもらった家がこの家でした。現在「封人の家」は国の重要文化財に指定され、最上町によって管理、公開されています。

（2）紅花大尽鈴木清風との出会い

「**尾花沢に清風といふ者を尋ぬ。かれは富める者なれども、志卑しからず。**」長旅をしてきた芭蕉にとって、尾花沢は古い友人の住む土地であり、くつろげる場所でした。彼はここで10泊し、その間地元の俳人たちと交流をもつなどして滞在を楽しんでいます。

清風は紅花商人として、江戸、京都、大阪などに出向いて手広く商売をし、その間に、談林派の伊藤信徳門に入って俳諧を学び、俳人や商人たちとの交流を深めていました。一方、芭蕉も、談林派の伊藤信徳と交流があり、清風と芭蕉は、こうした談林派の俳人を通して知り合ったと言われています。

（3）死者の魂が集まる霊山「山寺」への思い

山寺は、極楽浄土、あの世にいる人々に会いに来る山です。山寺の岩にあの世にいる人々の供養碑が彫り込まれています。山寺は、死者供養の最たるところなのです。

ここで、「**閑さや 岩にしみ入る 蟬の声**」という、セミの声が山寺の静けさを一層強く感じさせる句を詠んでいます。芭蕉は、この清閑の地・山寺であの世に居る死者の声を聞いたのではないかとされています。

- 一日目：最上町「封人の家」→山刀伐峠→尾花沢「芭蕉・清風歴史資料館」→天童・旧山寺街道→山寺(宿泊)
- 二日目：大石田「高野一栄宅跡」→新庄・渋谷風流亭跡→古口・仙人堂→清川・清川関所→手向(宿泊)
- 三日目：羽黒山→月山→湯殿山(宿泊)
- 四日目：鶴岡→遊佐町(吹浦)→酒田(日和山公園)→鶴岡(旧温海町)



最上川と仙人堂



月山遠景



夕日の庄内平野と最上川

(4) 時空を超えた義経と芭蕉の出会い「仙人堂」

最上川舟下り「高屋乗船場」の向こう岸、弁慶と一緒に来た義経の家来の常陸坊海尊ひたちぼうかいそんが建立したと言われる「仙人堂」があります。仙人堂は、農業や航海安全の神として信仰されているだけでなく、縁結びや健康長寿の神としても人気を集めています。

義経は清川から舟に乗り本合海まで最上川を上りました。芭蕉は義経とは逆のコースを辿り、最上川を下って仙人堂に立ち寄りしました。芭蕉のみちのくの旅は義経の足跡を辿ったとも言われていますが、いずれにしても時空を超えて義経と芭蕉が出会った仙人堂は、心のロマンの旅となって多くの人々に感動を与えています。

(5) 巡礼 出羽三山

出羽三山(月山・羽黒山・湯殿山)には、自然が持つ靈気と、長い年月の間、数えきれないほどの人々が祈りを捧げてきたパワーが充満しており、人は山に一歩足を踏み入れた途端、山の持つ勢いとおとこ厳かな雰囲気おとこに魅了されます。

江戸時代、「奥の細道」の旅の目的の一つとして、出羽三山に立ち寄った芭蕉は、それぞれの山での感激を句に詠み上げました。

涼しさや ほの三か月の 羽黒山(羽黒山)
 雲の峯 幾つ崩れて 月の山(月山)
 語られぬ 湯殿にぬらす 袂かな(湯殿山)

(6) 芭蕉と酒田

芭蕉は酒田に9日間滞在し、次の代表的な句を詠んでいます。

「あつみ山や 吹浦かけて 夕すずみ(酒田)」(おりからの暑さに縁のある名のあつみ山が彼方に見え、頭をめぐらせば暑気を吹き払うという名の吹浦が見渡されるが、そこへかけての眺望を見渡しながらの夕涼みをするのはまことに気持ちのよいことである)

「暑き日を 海にいれたり 最上川(酒田)」(ようやく夕方になったが、あつい一日を海に流し入れてしまった最上川、その河口のあたりから涼しい夕風が吹いてきた)

どちらも、酒田での夏の夕べの心地よさを詠んでいます。芭蕉滞在中は多くの句会、歌仙かせんが行われました。芭蕉直筆の懐紙が本間美術館に残されているなど、酒田と芭蕉とのつながりは深く、時代を超えて親しまれています。

コラム 49 義経伝説と芭蕉



源義経たちが、兄頼朝の怒りにふれ、奥州平泉(岩手県)藤原秀衡をたより逃れる途中、庄内から内陸を通った。



義経一行は、羽黒山から最上川へ行き清川から舟に帆をはり川をさかのぼっていった。



弁慶は途中あやしい人影めがけて石を投げ、その石がめりこんで残っている不思議な「弁慶のつづ手石」などがある。



弁慶と一緒に来た義経の家来の常陸坊海尊ひたちぼうかいそんは、仙人堂の地で義経たちが体を休めた後別れ、そこに仙人堂を建て、終生こもって修行をした。



常陸坊海尊は仙人堂内にある天狗の面や下駄をはき、体をきたえるために木から木へと跳びまわったという。



常陸坊海尊は心のみがくために、最上峡に多くある滝にうたれ、いつも修行を重ねていた。そして義経を追ってくる者をここで防いだと言われている。



それから約500年後、つまり今から約300年前の元禄2年、松尾芭蕉は曾良を伴い最上川を舟で下り、仙人堂に参拜のため舟からおりた。芭蕉の旅は、義経の足跡を訪ねる旅だった。



芭蕉と曾良は、参拝後、仙人堂から見える板敷山とすばらしい最上川の景観をながめた。



Yamagata has beautiful nature and delicious food for each of the four seasons. Every city, town and village in Yamagata has *onsen* (hot springs), and waits for visitors with the spirit of “*omotenashi*” (hospitality). In the Edo period, the traveler and *haiku* poet Matsuo Basho described the rich nature of Yamagata with *haiku*.

He started his trip through Yamagata at Sakaida in Mogami Town, then moved to Obanazawa via Natagiri pass, and in Obanazawa stayed with Suzuki Seifu for a while. After that, he went to Yamadera, one of the main points of his trip, and composed the famous *haiku*: “Silence! The sound of cicadas penetrates the rocks.” After traveling downstream along the Mogami River by way of Oishida and Shinjo, Basho arrived at another destination: the Three Mountains of Dewa (Mt. Gassan, Mt. Haguro and Mt. Yudono). After visiting the mountains, he stayed in Sakata for some days, and then went to Tsuruoka, Oyama and Atsumi. After leaving Yamagata, he headed for Niigata.

1 春 冬を越えて輝く 春の山形美

一日目 小国町小玉川(マタギの郷交流館、残雪の桜)→なかつがわ農家民宿(宿泊)
セラピー弁当 農家民宿郷土料理



飯豊町なかつがわ農家民宿「いろいろ」



小国町小玉川の熊まつり



セラピー弁当



いろいろを囲むなかつがわ農家民宿の女将たち(平成26年1月3日 山形新聞)

(1) マタギの郷 小国町小玉川で新緑を満喫

5月になっても、飯豊連峰の山々には、白く目を射るような残雪が残り、集落を流れる玉川の河原には、まだ雪が山をなしています。飯豊連峰と朝日連峰に挟まれた小国町の南西に位置する小玉川地区は、山とブナ・ミズナラ林とに囲まれたところです。約40軒、120人の集落で、今もマタギの文化が残っています。長い年月、このような厳しい自然の営みに鍛えられた人々の知恵が、地域の暮らしを支えてきました。昔は、4月のクマ狩りが終われば、山菜採り、夏は川狩りで、サクラマスを追ひ、秋はキノコ採り、11月になれば罾わなでクマを狙ひ、12月になると、ウサギ、タヌキ、イタチ、テンなどの小動物を獲っていました。

小玉川には森林セラピー基地「ブナの森 温身平ぬくみ」があり、地元食材を使い趣向を凝らしたセラピー弁当を食べながら新緑の春を満喫することができます。ブナとマタギの文化が評価されて、全国でも5本の指に入るセラピーの優秀基地とされています。

(2) 飯豊「なかつがわ農家民宿」～山菜料理とおもてなし～

飯豊町中津川地区は、広大な自然と山々に囲まれた素晴らしい場所です。その大自然が織りなす四季折々の景色や、築80年の古民家で昔ながらの食を楽しんでいただくのが、なかつがわ農家民宿「いろいろ」です。

春は山菜狩り、夏は川遊びや渓流釣りなどが楽しめ、秋は飯豊連峰山麓の紅葉につつまれた絶景を望むことができます。女将自慢の山菜料理や地元中津川に伝わる伝統料理「のりもち」作りも体験でき、夜にはご希望に応じ「あったか昔語り」も聞くことができます。

宿泊先を知らずに来日し、宿泊先が民家とわかった時に激怒した外国のお客さんが、翌朝、「離れたくない」と泣く姿を町の観光協会の人が目にしたそうです。ともに食卓を囲み、酒を酌み交わし、そして、何よりも何気ない温かな気遣いがお客さんにとって嬉しかったのかもしれません。いろいろを囲む中津川の農家民宿の女将たちは、都会に出た息子や娘を迎えるような温かなおもてなしで、来る人の心をつかんでいます。

コラム 50

残雪の桜

例年4月下旬からゴールデンウィーク頃、飯豊連峰を背景に、残雪の上に咲く桜を見ることができます。小国町の飯豊温泉国民宿舎梅花皮荘前かいらぎにある桜公園、残雪桜と言われる林です。ここは、隠れた桜の名所です。

桜が咲いてから雪が降ったわけではなく、積雪の多いこの地域、昨シーズンの雪が溶けてしまう前に気温が上がって桜が咲くということなのです。



小国町小玉川の残雪の桜

～置賜さくら回廊と飯豊・小国の新緑の山々～

二日目 フラワー長井線花見列車

南陽市(烏帽子山千本桜)→長井市(伊佐沢久保桜)→復興応援25品目弁当 → 白鷹町(釜の越桜)→あゆ茶屋 鮎の塩焼き



南陽市烏帽子山千本桜



長井市草岡の大明神桜



白鷹町釜の越桜



フラワー長井線花見列車



復興応援25品目弁当



白鷹町あゆ茶屋とヤナ場



鮎の塩焼き

(3) フラワー長井線で行く置賜さくら回廊

置賜さくら回廊は、山形県南部の置賜盆地に位置し、赤湯温泉～白鷹町までをつなぐ、山形鉄道フラワー長井線沿いの約43kmの桜の観光ルートです。「烏帽子山千本桜」を起点に、「伊佐沢の久保桜」「草岡の大明神桜」「釜の越桜」など、樹齢1,200年余りの古木や名木、巨木といった古典桜の名所が20か所ほど点在しているのが特徴です。1994(平成6)年、各桜の保存会が集まり「置賜さくら会」を結成し、ルートが設定されました。

南陽市「烏帽子山千本桜」は日本のさくら百選にも選ばれる名所です。園内にはソメイヨシノやシダレザクラなどおよそ1,000本の桜が植えられており、千本桜と称されるその光景は山全体がピンク色に染まったように見えます。国指定の天然記念物、長井市草岡の「大明神桜」は、樹齢推定1,200年で幹周りの太さは全国2位に数えられるまさに日本を代表する名木です。白鷹町「釜の越桜」は、樹齢800年の見事なエドヒガンの名木で、樹高20mと山形県内随一の大きさを誇ります。

花より団子と言われるように、花見に付きものはおいしい食べ物です。まずは、フラワー長井線名物「復興応援25品目弁当」を食してみましょう。さらに、終点荒砥駅から少し足を伸ばし、白鷹町あゆ茶屋のヤナ場を見ながら鮎の塩焼きを味わうのもいいものです。

コラム 51

久保桜伝説

蝦夷討伐で立ち寄った坂上田村麻呂が、地元豪族久保氏の娘「お玉」と、思慕の仲になりました。



長井市伊佐沢の久保桜

しかしお玉は、田村麻呂帰国後にこの世を去ってしまいます。

悲しんだ田村麻呂は、桜を送って植えさせました。この桜が「久保桜(お玉の親、久保氏の桜)」で、別名「お玉桜」と呼ばれるようになったそうです。(伊佐沢振興会ホームページより)



Spring in west Okitama is beautiful. One can experience the bright and beautiful spring of Yamagata after the very cold winter.

New, green leaves in Kotamagawa, Oguni Town mark the arrival of spring. In late April, while there is still snow un-melted, you can see cherry blossoms blooming over the snow. There are many private inns run by farm families in Nakatsugawa, Iide Town. The hostesses give guests a warm welcome with dishes that use *sansai*, edible wild plants growing in fields and on mountains.

Around this time, cherry blossoms in the Okitama area are in full bloom. The "Flower Line" of Yamagata Railway Co., Ltd. runs a special train for passengers to enjoy the cherry blossoms while riding. If you take that train, you can enjoy the *kubo-zakura* of Nagai and the *kamanokoshi-zakura* of Shirataka, famous throughout the country.

2 夏1 山形自慢の「日本一」を満喫

一日目 山形市(高瀬地区紅花摘み)→天童市(紅花染め)→東根温泉(宿泊)
冷やしラーメン



紅花



山形市高瀬地区の紅花畑とスタジオジブリ映画「おもひでぼろぼろ」



おくのほそ道 天童紅花まつり「紅花畑と紅花娘」



紅花染め体験



紅花料理「紅花きり」



河北町紅花資料館

コラム 52

紅花県内一の生産量(白鷹町)

「県の花紅花」にもかかわらず、その咲いているさまを以前は県内でわずしか見ることができませんでした。県や白鷹町の歴史に深くかかわりのある紅花を、地域の文化伝統などと連携を図りながら復活させ、昔のように咲き誇る姿を見てもらおうと、1994(平成6)年に8名の有志で「白鷹紅の花を咲かせる会」が発足し、1995(平成7)年から「白鷹紅花まつり」をスタート、2002(平成14)年からは町あげでの初夏のまつりとして、滝野交流館をメイン会場に開催しています。さらに2007(平成19)年からは、紅花摘みを楽しんでいただき、紅餅づくりまで体験でき、摘んだ紅花の量に応じてお礼をするという「花摘み猫の手隊」もスタートしました。今では栽培面積が約10倍まで拡大し、県内一の生産量で多くの観光客が訪れています。



紅花摘みの様子(白鷹町)

(1)「紅花の里」山形市高瀬地区へ

江戸時代に最盛期を迎えた『最上紅花』は、当時「紅一^{もんめ}匁金一匁」と言われた高級品で、羽州街道から最上川舟運により京・大阪まで運ばれ一世を風靡しました。

山形市高瀬地区は、市そして県の花である『紅花』の里として知られ、スタジオジブリ作品『おもひでぼろぼろ』の舞台にもなりました。毎年7月に開催される『山形紅花まつり』には県内外から多くの観光客が訪れ賑わいます。

(2) 天童紅花まつり

天童市でも、毎年7月に「おくのほそ道 天童紅花まつり」が開催されます。松尾芭蕉が1689(元禄2)年7月13日に天童の地を訪れ、「まゆはきを俤にして紅粉の花」、「行く末は誰が肌ふれん紅の花」と詠んでいる天童の紅花が、上貫津の紅花畑に咲き誇ります。約7万本の紅花が満開になり、紅花畑一面が鮮やかな黄色に染まります。紅花摘み体験、紅花染め体験、紅花すり体験、紅花リップクリーム作り体験ができ、紅花料理も食べることができます。

コラム 53 山形から生まれた冷やしラーメン&冷たい肉そば

冷やしラーメンは、山形市で誕生した郷土料理で、スープも麺も冷たく、氷を浮かべることもあります。冷やし中華とは異なり、通常のラーメンと同じようにたっぷりのスープに麺が浸されています。冷たい肉そばは、河北町におけるそばの食べ方の一つで、具は鶏肉(歯ごたえのある親鶏が中心)とねぎがメインで、つゆは鶏だしで冷たくしてあります。



山形市の冷やしラーメン



河北町の冷たい肉そば

のびないように冷やして出したのが始まりと言われています。地元のお店では、温かい肉そばも提供されますが、冬でも冷たい肉そばを注文する客が多いようです。

～さくらんぼ狩りと紅花染め～

二日目 東根市(さくらんぼ狩り)→河北町(紅花資料館)→寒河江市(さくらんぼ会館)

冷たい肉そば



さくらんぼの果樹園が広がる寒河江市



さくらんぼ狩り(東根市)



さくらんぼ会館(寒河江市)



さくらんぼ

(3) 紅花資料館を訪ねて

河北町谷地を訪れると「紅花資料館」があります。この資料館は、近郷さっての富豪だった堀米四郎兵衛の屋敷跡で、屋敷には武器や生活用品及び古文書など5,000点を保存しています。

「紅の蔵」には、林家舞楽「沙羅龍王の舞」の模型、各時代の雛、紅花全盛に活躍した小鶺鴒舟や北前船の模型、絢爛豪華な紅染衣装等を展示しています。「工房くれない」は町内に残る蔵を移転復元したもので紅花染め・わら細工などの体験学習の場として利用されています。

(4) 「佐藤錦の里」東根市でのさくらんぼ狩り

毎年、6月から7月にかけて、山形はさくらんぼ狩りで賑わいます。さくらんぼ生産量日本一・さくらんぼの王様「佐藤錦」発祥の地である東根市では、さくらんぼのスーパーブランド「佐藤錦」でさくらんぼ狩りを楽しむことができます。市内にはさくらんぼ狩りのできる32の果樹園があり、温室さくらんぼ園では4月下旬から楽しむことができます。

(5) 寒河江市の「さくらんぼ会館」へ

さくらんぼ生産が盛んな寒河江市に「道の駅寒河江チェリーランド」があります。その中に、スペースシャトルをイメージしたピンクのモダンな建物「さくらんぼ会館」があります。館内には、明治の初め、先人が寒河江市にさくらんぼを栽培した歴史やさくらんぼの栽培に関する写真・パネルなどさくらんぼの資料全てを展示しています。

寒河江市はさくらんぼの原産地であるトルコ共和国のギレスン市と姉妹都市を結んでおり、敷地内には「トルコ館」が建てられています。

コラム 54

佐藤錦誕生秘話

さくらんぼのなかで最も人気の高い「佐藤錦」は、果樹王国と呼ばれる山形県でも特別な存在になっています。

さくらんぼは収穫期が梅雨と重なるせいで実が割れ、生産量が伸び悩んでいた時、新しい品種を作れないかと考え「佐藤錦」を誕生させたのが佐藤栄助翁です。

好奇心が旺盛なことに加え果樹栽培が趣味だった彼は、果肉が固くて酸味のある「ナポリオン」と、甘いが発育の難しい「黄玉」に着目。交配によりできた実を発芽させて苗木を作り、そのなかで良いものを移植して育成し、1922(大正11)年、初結実をみます。さらに選別を重ね、2年後、ついに最も優れた1本、すなわち原木の育成に成功しました。本格的に取り組んでから、15年余りの歳月が過ぎていきました。



佐藤栄助翁像



In early summer, you can fully enjoy Yamagata's proudest things—the best in Japan.

One is a trip to enjoy *benibana*, the prefectural flower of Yamagata. The Benibana Festival is held in Takase, Yamagata City and Kami-Nukutsu, Tendo City, where visitors can experience picking *benibana* flowers or dyeing cloth with *benibana*. They can also eat *benibana* dishes. You can learn all about *benibana* at the Benibana Museum in Yachi, Kahoku Town!

Another “Japan’s best” is Yamagata’s cherries. Visitors can pick cherries in Higashine City or Sagae City, which are the top two cherry-producing cities in Japan, or learn about the history of cherry cultivation at Sakuranbo Hall in Sagae City. In summer, try Yamagata’s local specialties: *Hiyashi Ramen* (chilled ramen noodles) and *Tsumetai-Nikusoba* (cold soba topped with chicken).

夏2 体験 山形の大自然

～最上の巨木、最上川舟下り(仙人堂・幻想の森)→鳥海高原、そして飛島へ～

一日目 金山町(大美輪の大杉)→真室川町(滝ノ沢の一本杉)→鮭川村(小杉の大杉)→戸沢村古口(最上川舟下り 最上川おしん弁当)→仙人堂見学→幻想の森散策→酒田市(鳥海高原家族旅行村宿泊 三元豚バーベキュー)

ライトアップの「玉簾の滝」見学

二日目 酒田港から飛島へ→飛島一日体験 飛島海鮮料理 →(午後3便)→酒田港



金山町 大美輪の大杉



真室川町 女甕山の大カツラ



最上川舟下りと仙人堂参拝



幻想の森 土湯杉

コラム 55

鮭川村の トトロの木

鮭川村曲川の大杉はアニメ「となりのトトロ」のトトロに似ていることから、地元では「トトロの木」と呼んでいます。この木が一躍有名になったのは、かつてJR東日本のポスターに掲載されたことからでした。この木は、近くの小杉地区の名前をもじり、「小杉の大杉」とも呼ばれます。



根元に山神が祀られ、村のご神木として崇められ、芯が2本あることから夫婦杉、縁結びの杉とも呼ばれ、夫婦で手をつないで杉の根元で休むと子宝が授かるという言い伝えもあります。愛らしく、縁起も良いということでこの木を見に、たくさんの方が訪れています。



鮭川村の小杉の大杉

(1) 最上の巨木に耳を傾ける

最上地区には、古代よりこの地に根をおろし、聳え立つ巨木が数多くあります。大美輪の大杉(金山町)、女甕山の大カツラ(真室川町)など、雨風に耐え、辛く厳しい冬を乗り越え、今日まで生き抜いてきた巨木の前にたたずむとその存在の大きさに、また、荘厳な姿に言葉が出ないときがあります。

その他にも志津のイタヤカエデ(新庄市)、東法田の大アカマツ(最上町)、若神権現のクロベ(大蔵村)、紫山夫婦センノキ(舟形町)などがあります。『巨木の里 最上』、そんな巨木にそっと耳を傾けてみませんか。

(2) 舟下りで最上川を体感～仙人堂、幻想の森～

新庄市本合海から古口を経て、草薙まで、芭蕉も下った最上川を舟で下ると、最上峡の滝をはじめ大自然を体感することができます。

途中、義経とゆかりがあり、義経の家臣だった常陸坊海尊を祀っている「仙人堂」や「幻想の森」があります。「幻想の森」の土湯杉は天然杉で神の杉とも言われています。



最上川おしん弁当

(3) 鳥海高原家族旅行村と玉簾の滝

鳥海山の麓、標高500mの鳥海高原にある交流型レジャー施設「鳥海高原家族旅行村」は、キャンプ場はもちろん、ケビン棟やツリーハウスもあり、野外でバーベキュー(三元豚)を楽しみながら、キャンプ感覚で宿泊ができます。

すぐ近くに、山形県随一の高さ63m、幅5mの「玉簾の滝」があり、夏にはライトアップされます。





飛島全景



カフェスペース「しまかへ」のランチメニュー

- ①天然岩のりを使った「島おむすび」
- ②飛魚のつみれスープ
- ③島産の野菜、山菜料理
- その他 イカスミブラックカレー
飛魚を使ったアイス 等



飛島クリーンアップ作戦



海岸に咲くスカシユリ



飛島海づり公園

(4) 北の離島、自然と伝説の飛島へ

山形県には唯一の離島「飛島」があり、海の自然を満喫することができます。飛島は、酒田港から北西39kmに位置し、酒田港から定期船「ニューとびしま」（定員300名）で90分で行くことができます。周囲を対馬暖流が流れているため、山形で最も北に位置しているのに、年間の平均気温は12℃です。

島の魅力は、東北の日本海では珍しいサンゴのあるマリンスポーツの海、イカ、トビウオ、サザエなどの新鮮な魚介類です。「ごどいも」と呼ばれる美味しいジャガイモもあります。飛島には、旅館・民宿もあるので、島に泊まって島料理を堪能するのも楽しみの一つです。また、飛島は渡り鳥の中継地として、春と秋の鳥の渡りの時期には多くのバードウォッチャーで賑わいます。海釣りも楽しむことができ、大物を求める釣り客も多くいます。近年では海岸に咲くスカシユリなどの花を見ながらトレッキングを楽しんだり、無料の観光用自転車で島内を散策する人もいます。

酒田市の離島・飛島の観光やにぎわいの拠点としてのカフェスペース「しまかへ」があり、地元産の食材をふんだんに使ったランチメニューが人気です。運営しているのは、20～30代の若者で構成している「合同会社とびしま」で、その他にも、空き家を改修した加工所での商品開発、農業や漁業の生産活動等、1～3次産業までを総合的に行う6次産業の場をつくり始めています。

豊かな自然に恵まれ絶好の観光スポットとなっている山形県唯一の離島「飛島」も、一方では、離島であることで漂着ごみも流れ着きやすく、その処理も難しくなっています。この課題を解決しようと始まった飛島クリーンアップ作戦も回を重ね、2015（平成27）年5月30日の開催で15回目を迎えました。

コラム 56

飛島と鳥海山伝説

昔、大きな鳥が3つの卵を抱え飛んできて鳥海山の頂上に巣を作りました。暫く経つと、鳥海、月山両所大菩薩と丸子親王が生まれました。この大きな鳥は地域の先祖となり、荒れ地を耕させ、米を作らせました。その後、北の方の嶺の大きな池に沈み、それからその池を「鳥の海」と呼ぶようになりました。だからこの地の人は鳥は食わず、丸子親王の子孫は鳥を家紋にしました。

この山に手長足長という毒蛇がおり、それを知った神様が山に見張りを置くことにし、木に鳥を置き、毒蛇が出れば「有耶」、居なければ「無耶」と鳴かせて旅人に知らせました。それからそこを有耶無耶の関と呼んだそうです。

ある時、鳥海山が自分より高い山はないだろうと独り言を言いました。ある日、旅人が鳥海山にやってきて、眺めながら立派な山だが富士山の方が高いと呟きました。すると鳥海山は威張っていたのが恥ずかしいやら悔しいやらで、頭だけポンと飛び出しました。それが日本海に落ち飛島となったと言われています。このようなことから、飛島と鳥海山が離れていても同じ神様を祀っています。（秋田の昔話・伝説・世間話「鳥海山」より）



飛島から見た鳥海山



During summer vacation, let's enjoy the vast nature of Yamagata with our families. Begin this experience by visiting the big trees in the Mogami region. There are many such trees, which took root in ancient times and now tower up into the sky. In Sakegawa, there is a massive cedar famous as the "Totoro Tree."

Next, look at waterfalls and experience the great nature of the Mogami Canyon on a boat down the Mogami River. On the first day, enjoy camping at Chokai Natural Family Village. At night, go and see the nearby Tamasudare-no-Taki waterfall which is beautifully illuminated. On the second day, why not enjoy fishing and look at plants, or try bird watching among the abundant nature of Tobishima Island? On Tobishima, there is a cafe called Shima-Kahe: the lunch they offer there is cooked with plenty of local ingredients and is quite popular.

3 秋 「本当に、うまい！」山形の秋の味覚

- 一日目 上山観光果樹園→馬見ヶ崎河原で芋煮体験→天童で酒造見学→(温泉泊)
- 二日目 西川町銘水館地ビール工場→ 山菜料理 →朝日町りんご狩り→りんご温泉



直径6mの大鍋には「里芋3t、牛肉1.2t、こんにゃく3,500枚、ねぎ3,500本、味付け醤油700ℓ、隠し味に日本酒50升、砂糖200kg、山形の水6t」を入れ、6tの薪(ナラ材)で煮炊きします。

3万食の芋煮ができるまで



1. 夜が明けない時間から、里芋を洗って準備します。



2. リレー方式で食材を鍋まで運びます。



3. 火入れ



4. 鍋に様々な食材を入れます。



5. 名物の重機を使った調理風景

コラム 57

芋煮の発祥地中山町

山形県を南から北へ、そして日本海へ流れる最上川。江戸時代にはこの山形県の母なる川、最上川を利用した舟運が盛んでした。山形県の内陸部からは米や紅花、青芋などを酒田を経由して京都・大阪へ、一方、京都・大阪からは砂糖や干魚のほか、衣類や雛人形など上方文化を運んできました。

1694(元禄7)年に荒砥(白鷹町)まで最上川舟運が通じるまでは、長崎湊(中山町)は舟運の終点であったとされ、米沢方面への船荷の積み替えが行われた要地でした。その舟運に携わる船頭や商人たちは荷揚げや荷待ちの逗留の間、棒だらと里芋を材料に、川岸の松の枝に鍋を掛けて煮て食べました。これが芋煮会の始まりで、この松の木は『鍋掛の松』と呼ばれるようになりました。



鍋掛の松(中山町)

(1) 地元の食材で作られた「山形芋煮」を味わう

山形では秋になると家族や友人たちのグループが集まり、河原で石を積んでかまどを作り、里芋、牛肉、コンニャク、ねぎなどを入れた野外鍋料理を楽しみます。

そんな芋煮の季節の到来を告げるのが、毎年9月に山形市の馬見ヶ崎河川敷で行われている「日本一の芋煮会フェスティバル」です。これは、山形の「食文化・秋の芋煮会」を全国に発信するために、山形商工会議所青年部が1989(平成元)年に始めたイベントで、6mの大鍋に山形特産物の里芋3t、牛肉1.2t、コンニャク3,500枚、ねぎ3,500本、味付けの醤油700ℓ、隠し味に日本酒50升、砂糖200kg、そして水6tを入れ、6tの薪(ナラ材)で煮炊きする、おいしさもスケールもまさに日本一です。

6mもの大鍋での調理は、通常の調理器具では、なかなかうまくいきません。そこで毎年登場するのが、大型重機のバックホーです。作業するのは、熟練の運転手の皆さんです。

山形風芋煮とその材料(里芋・コンニャク・山形牛・ねぎ・山形水)



～芋煮、地酒、そばに山菜、そして果実～



ぶどう狩り（上山市内の観光果樹園）



朝日町のりんご狩り



西川町の山菜そば



山形の酒



山形のワイン



西川町地ビール

（2）果樹王国山形の秋の果実を味わう

果樹王国山形の秋は、夏から続くぶどう、プルーン、りんご、柿、日本なし、西洋なし、それにあげびとおいしい果物を味わうことができます。国道13号沿いの高畠町から、南陽市、上山市にかけてなだらかな丘陵地の見事なぶどう畑が見えます。日当たりが良く、昼夜の寒暖の差が大きく、成熟期に雨が少ないことなどが好条件となって甘いぶどうが作られています。

また、朝日町では、日本一の蜜入りりんご『ふじ』を作り上げましたし、2006（平成18）年には山形オリジナルの『秋陽』も市場でデビューしました。「太陽に透かすようにして、りんごのお尻を見る。うっすらとアメ色に見えるのが摘みごろ。ここまで待って出荷します。」というのが生産者の声です。

（3）吟醸王国山形の地酒、ワイン、地ビールを味わう

山形は吟醸王国として多くのおいしい酒や、地元のぶどうを使用したワインを作っていますが、西川町では地ビールを作っています。

日本有数の豪雪地帯である月山に降り積もった雪が、長い年月をかけて「月山自然水」になり、「地ビール月山」へと姿を変えています。スッキリした味わいで最も日本人好みなピルスナーをはじめ、その季節ごとに楽しめるビールも各種限定で作っています。

月山をはじめ豊かな山々に囲まれた西川町の秋は山菜料理も豊かで、なめこ、しめじ、まつたけなど多くのきのこがあります。月山地ビールを飲みながら山菜そばを味わうのも格別です。

コラム 58 山形の酒蔵・ワイナリー

全国新酒鑑評会^{かんけいこうかい}で、全国有数の金賞受賞数を誇る「吟醸王国・山形」。山形県には54の酒蔵があり、県内全域にこれだけの酒蔵があるのは全国的にも珍しく、その土地ならではの気候や風土・文化を生かした銘酒を育み、切磋琢磨しながら品質を競い合っています。

また、酒どころに欠かせないのが、おいしい「水」と「米」、そして「酒を知り尽くしたつくり手」であり、山形にはそれらすべてがそろっています。

また、地元栽培のぶどうを使用し、風土の良さを生かしたワイン作りが盛んで県内には12のワイナリーがあります。これもまた、全国上位になっています。長い伝統と経験をふまえながら、良質のぶどうと最新の醸造技術^{かも}により、風味際立つかわしいワインを醸し出します。

天然の山ぶどうを使ったり、旧国道のトンネルを利用したりとちょっと他県ではないユニークなワイナリーもあります。



朝日町ワイン城



Yamagata is full of delicious food in autumn. The best local dish for autumn is *imoni* (taro stew). Every September, the Nihon-Ichi-no-Imoni-kai Festival (Japan's Number-One *Imoni* Picnic) is held on the bank of the Mamigasaki River in Yamagata City. Visitors are surprised at the huge cooking pot, which makes enough food for 30,000 people. The ingredients: taro, beef, *konnyaku* (devil's tongue root), leeks, soy sauce, *sake* and water are all produced in Yamagata.

Yamagata is also a "fruit kingdom." You can eat delicious fruit, such as prunes, apples, persimmons and La France pears in autumn. Yamagata produces many kinds of tasty *sake* and wine made from local grapes. In Nishikawa Town, they produce local beer with pure water from Mt. Gassan.

4 冬 山形「雪の芸術」の旅

一日目 米沢→小野川温泉かまくら村→米沢(宿泊→雪灯籠まつり参加)

米沢ラーメン

米沢牛のすき焼き



小野川温泉のかまくら村 (米沢市)



上杉雪灯籠まつり (米沢市)

コラム 59 米沢牛の話

山形県と牛肉との密接な関係は明治初期からで、一人の英国人が米沢へ来たことに端を発します。米沢には名君の誉れ高い10代藩主、上杉鷹山公が創設した藩校「興讓館」がありました。1871(明治4)年、東京開成学校から赴任してきたのが英国人のチャールズ・ヘンリー・ダラス氏です。氏はコックとして連れてきた万吉に米沢産の黒牛の料理を所望したところ、そのおいしさに驚嘆。1874(明治7)年には、米沢での牛肉屋第一号となる「牛万」を万吉に開かせてしまいました。ダラス氏は1875(明治8)年、任期を終えて帰京することになりますが当地で食べた牛肉の味が忘れられず、牛一頭を連れ帰ってしまいます。そして外国人の居留が多かった横浜でこの牛肉をふるまったところ、あまりのおいしさに皆が絶賛。これがキッカケで牛肉は「米沢牛」として売り出され、その名声が全国に広まったと言われています。

もともと米沢など置賜地域では、古くから南部地方の「上り牛」を導入し、農耕を目的に飼育を行っていたと言います。上杉綱憲公時代の1681(天和元)年当時、すでに牛への課税があったとの記録もあります。(おいしい山形HPより)



(1) かまくら村でのあったかい米沢ラーメン

冬、雪国ならではの楽しみ方がたくさんありますが、山形「雪の芸術」の観賞を楽しんでみましょう。一つ目は「かまくら」です。

米沢市の奥座敷、かつて小野小町が旅の途中で病を癒すため一時期居住していたという伝説が残る小野川温泉では、冬の名物企画「かまくら村」がオープンします。かまくらは、高さ3.5m、直径4mで壁の厚さは約1m、内部は高さ2m、奥行き2mの広さがあり、テーブルと椅子を置き、6人座ることができます。

各旅館宿泊とかまくら遊び、すき焼きなどがセットになったプラン「小野川温泉かまくら村を楽しむ旅」も準備されています。何よりも、かまくらの中から「米沢ラーメン」を注文すると出前で届けてくれます。



かまくらでの米沢ラーメン

(2) 幻想的な世界を体験～米沢の雪灯籠～

山形「雪の芸術」の二つ目は「雪灯籠」です。

毎年2月の第2土曜・日曜日、米沢市松が岬公園一帯を主会場に約300基の雪灯籠と、1,000個の雪ぼんぼり(雪洞)に燭が灯されます。やわらかな灯りが揺らぐ情景には温もりと美しさがあり、幻想の詩情を添えて人々をメルヘンの世界へと誘います。『上杉雪灯籠まつり』には、深々と降る雪に故人を偲び、現代の平和の礎となった戦没者の御霊に献灯し、『命の尊さと世界の恒久平和を次の世代に伝えていきたい』との思いが込められています。

崇高で幻想的な雪灯籠を観賞するとともに、ご当地名物、日本三大和牛に数えられる『米沢牛のすき焼き』を味わってみてはどうでしょうか。



雪灯籠を見ながらの米沢牛のすき焼き

～小野川温泉かまくら村、米沢の雪灯籠、蔵王の樹氷、山寺の雪景色～

二日目 米沢→蔵王(中央ロープウェイ)樹氷見学→水墨画の世界、山寺の雪景色

山形玉こんにゃく

山形のそば



蔵王の樹氷 (山形市)



山寺の雪景色 (山形市)

(3) アイスモンスター～蔵王の樹氷～

山形「雪の芸術」の三つ目は「樹氷」です。

1950(昭和25)年に日本観光地百選の山岳の部で1位に選ばれた蔵王は樹氷とスキーのメッカとして全国に知られるようになりました。樹木が樹氷や雪によって完全に覆われたものが「アイスモンスター」と呼ばれ、その景観を求めて国内外からたくさんの観光客が訪れます。例年2月上旬からが最も見応えがあります。

スキーでなくても、ロープウェイで山頂まで行き、樹氷を鑑賞することができます。とても寒いので、帰りは心も体もあたたまる「山形玉こんにゃく」を食べてみましょう。



蔵王での山形玉こんにゃく

(4) 水墨画の世界～山寺の景色～

山形「雪の芸術」の四つ目は、水墨画のような「雪景色」です。

山寺は正しくは「宝珠山立石寺」と言い、慈覚大師円仁によって開山されました。そして、山寺一体は豊かな自然に恵まれ、四季折々、美しい風景を楽しませてくれますが、中でも冬は格別です。真っ白な雪に覆われて、銀世界となりますが、岩山に立つ山寺の風景は水墨画の世界を表現しているようです。風雅の国から見る眺めも見事で、山形のそばを味わいながら鑑賞してみたいかがでしょうか。



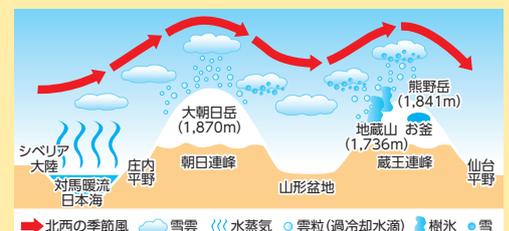
雪景色の観賞と山形そば

コラム 60 樹氷の秘密

氷点下まで過冷却が進んだ水滴が吹雪と一緒にアオモリトドマツなどにぶつかり、そのまま凍りついたものが「樹氷」で、世界的にも珍しい自然現象です。

蔵王の樹氷の着氷は12月中旬ごろから始まり、2月中旬から3月ごろに最も大きく成長します。この時期は、雪の表面も堅くしまり、スキーやスノーボードに最も適した時期で、樹氷原の間を縫って雄大な滑降を楽しめます。

蔵王山の樹氷が“アイスモンスター”と呼ばれるスケールにまで成長する理由は、雪片と『豊富な過冷却水滴』にあります。冬の季節風に乗った過冷却水滴が樹氷の「芯」となるアオモリトドマツや樹氷の先端(エビの尻尾)に衝突すると、水滴は“その衝撃で”凍り付き、その繰り返しで樹氷を巨大に成長させています。



In winter, Yamagata Prefecture becomes a silvery snow country. There are things that you can enjoy only in snowy places, like snow art. One of these is the *Kamakura Mura* igloo village in Onogawa Onsen, Yonezawa City. Eat Yonezawa *ramen* while enjoying fantastic winter moments. Another is *Uesugi Yukidoro Matsuri*, the Uesugi Snow Lantern Festival in Yonezawa City. The importance of life and wishes for peace are put into these snow lanterns.

The third is the *juhyo*, or “ice monsters,” of Mt. Zao. People come from all over the country to see these ice monsters. Finally, the fourth is the snowy view of Yamadera. In winter, the view of Yamadera on the rocky mountainside looks like a *sumi-e* ink painting.



春：ライトアップに輝く桜満開の「あつみ温泉」(鶴岡市)



冬：雪景色に輝く「銀山温泉」(尾花沢市)



夏：鳥海山を望む「湯野浜温泉」(鶴岡市)



将棋の町「天童温泉」(天童市)



朝市で賑わう「肘折温泉」(大蔵村)



秋：秘湯「滑川温泉」(米沢市)

温泉王国「やまがた」 一旅を潤す山形の温泉

コラム 61

蔵王温泉とヤマトタケル

湯煙と硫黄の香りに包まれる蔵王温泉。開湯は天皇の命を受けた日本武尊が蝦夷討伐に来た西暦110年と言われています。日本武尊の家臣・吉備多賀由は、戦いで毒矢に当たり、全身がただれ苦しんでいた時、家来が偶然、湯浴みができるほどに温かく、酢のような味がする不思議な泉が湧いているのを見つけます。

そして、その温泉で湯浴みをした吉備多賀由の傷がわずか数日で回復したというのです。その後、多賀由の名にあやかり「多賀由温泉」と呼ばれていましたが、転じていつしか「高湯温泉」と名前を変え、千年以上にわたり親しまれてきました。1950(昭和25)年に、日本観光地百選・山岳の部で蔵王が第1位となったのを期に「蔵王温泉」に改められ、現在に至ります。



(1) 四季折々楽しめる山形の温泉

春、あつみ温泉(鶴岡市)では川辺に配された足湯やウッドデッキでのんびりくつろぎながら花見ができます。4月中は桜並木のライトアップが行われ、あたりはロマンチックな雰囲気に包まれます。

夏、湯野浜温泉(鶴岡市)は海水浴客で賑わいます。日本海に面してホテルや旅館が建ち並びリゾート温泉街で、湯船から水平線に沈みゆく夕日の美しい光景が楽しめます。

秋、紅葉に包まれた東吾妻への山道の途中、前川上流の切り立つような北谷の山中に「滑川温泉」(米沢市)があります。自家源泉の湯が絶え間なく浴槽に注がれ、乳白色の濁り湯は時間によって透明や青透明に変化します。

冬、銀山温泉(尾花沢市)では、銀世界を灯すガス灯の明かりが一段とロマンチックに輝きます。そして、冷えた体には、お風呂と熱々の鍋料理が待っています。大正末期から昭和初期に建てられた洋風木造多層の旅館が銀山川の両岸に沿って軒を並べ、昔ながらの独特な景観を味わうことができます。

(2) 全国唯一35市町村に温泉のある「温泉王国」

山形は全国で唯一、全35市町村に温泉が湧出している「温泉王国」でもあります。各地域ごとに特色ある温泉街が点在し、山や渓谷、日本海を眺めながらの温泉、近代的な大型旅館、昔ながらの湯治の宿等々、様々なタイプの温泉を巡るのもおすすめです。

天童温泉(天童市)は、近代的な大型ホテルから小さな旅館まであり、利用者に合ったバランスのとれた施設が整備されています。将棋駒の生産が有名で、温泉街全体に将棋の駒のモニュメント等を見ることができます。

肘折温泉(大蔵村)は、月山の麓、銅山川沿いに数多くの旅館が存在しています。古くから湯治場であったことから、自炊部を持つ旅館が多くなっています。朝5時からの朝市は、湯治客で賑わいます。また、若手画家に灯籠絵「ひじおりの灯」の作画を依頼し、夏の夜に温泉街で点灯しています。素朴な湯治文化とともに、仙境霊湯の絵物語を楽しむことができます。

(3) 山形観光マップと 主な温泉

赤倉温泉 (最上町)

諸国行脚中の慈覚大師の発見により開湯したと言われる情緒豊かな温泉街。冬は近隣のスキー場の拠点としても利用されています。



湯田川温泉 (鶴岡市)

国民保養温泉地に指定され、古くから「鶴岡の奥座敷」と呼ばれています。約10軒の風情ある純和風旅館が建ち並びます。



瀬見温泉 (最上町)

小国川の左岸に開けた温泉郷。義経伝説が語り継がれ、懐かしさを感じさせる風情とぬくもりがあふれています。



小野川温泉 (米沢市)

ホテルの里でもあり、小野小町ゆかりの地。伝説に彩られた美人の湯は、あの伊達政宗も愛した温泉です。



さくらんぼ東根温泉 (東根市)

西に月山、葉山、朝日岳を遠望する美しい田園の湯。黄褐色のお湯は体の芯から温まり、湯冷めしにくいと評判です。



赤湯温泉 (南陽市)

源義綱(八幡太郎義家の弟)が発見したと伝えられ、藩政時代には上杉藩主も訪れました。湯治場時代の細やかな人情が生き続ける湯の街です。



白布温泉 (米沢市)

開湯700年の歴史がある静かな秘境の地。周辺には豊かな山々が広がり、築300年以上の茅葺き屋根の宿も残っています。



かみのやま温泉 (上市市)

鶴が傷ついた体を湯で癒した伝説から別名「鶴経の湯」と呼ばれています。城下町であり、宿場町としても栄えた温泉街です。

